

## メキシコ – 政策金利を50bp引き上げ –

### ＜政策金利を6.25%に引き上げ＞

メキシコ中央銀行は2月9日（現地時間）、政策金利を50bp引き上げて6.25%にすることを決定しました。

声明文では「メキシコ経済については、企業投資が弱いものの、外需の改善と力強い個人消費により回復している」と指摘する一方、トランプ新政権の政策への不透明感がメキシコ経済への課題となるとしています。

インフレ率は、ガソリン価格改定と通貨安の影響から一時的に中銀の目標範囲を超えているとする一方、通貨安によるコアとサービス価格へのインフレ上昇圧力に言及しており、二次的影響を警戒していることも明らかにしています。中銀は、インフレ期待の上昇を抑え、金融政策の効果を高めるため、今回も利上げを決定しました。引き続き、インフレ要因を注視するとともに、メキシコと米国の金融政策の相対的な関係についても警戒するとしています。

### ＜メキシコペソは上昇＞

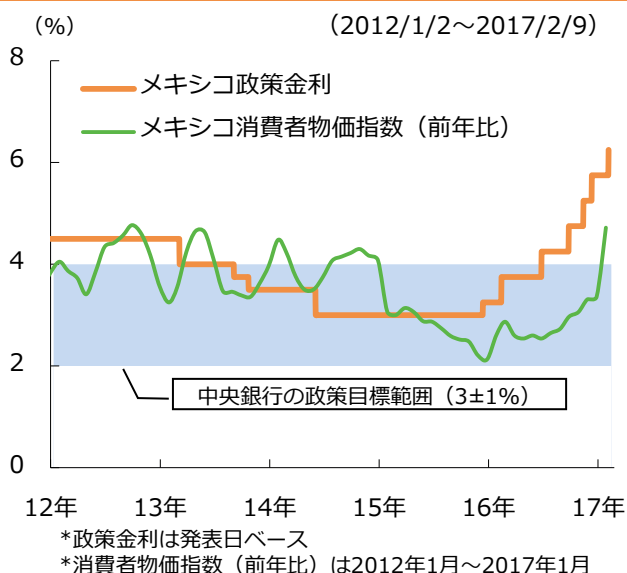
今回の50bpの利上げは市場予想通りでしたが、利上げ発表後のメキシコペソは対米ドルで上昇しました。2月9日の海外終値は1米ドル＝20.35メキシコペソ、1メキシコペソ＝5.5648円となっています。

### ＜今後の見通し＞

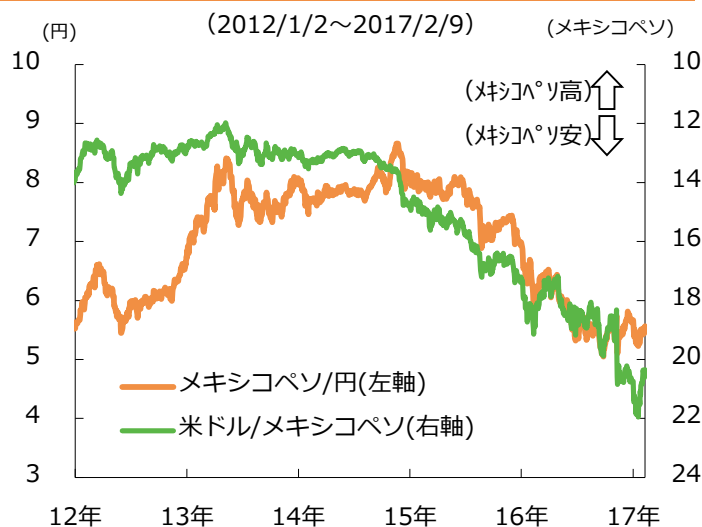
1月末に予定されていたペニャニエト大統領とトランプ米大統領の会談が先送りになったことで、メキシコ経済の先行きについて不透明感が高まった状況が続くと考えられます。ただ、NAFTA再交渉は早くても5月からと一定の時間的猶予があることや、米国側の当局者がNAFTA脱退を望んでいないとみられることは、メキシコペソをサポートする要因となる可能性があります。

中銀はメキシコペソの不安定な動きを受けて1月に為替介入を行っており、メキシコペソ安が急激に進む場面では今後も当局による対応が予想されます。メキシコペソが歴史的な水準まで低下していること、金利先高観が見込まれること、政府・中銀の政策対応が予想されることなどがメキシコペソの支援材料となる見込みです。

### ＜インフレ指標と政策金利の推移＞



### ＜メキシコペソ為替の推移＞



出所：Bloomberg